

講演内容の要約 (文章：松戸整形外科病院 PT 中嶋良介先生)

2018/06/30 第1日目 「講演 許されざる Delay 許されざる Delay」

1. 肩のセッションでは、北里大学整形外科の見目先生より、外傷性肩関節脱臼や化膿性肩関節炎についてご講義頂いた。肩関節脱臼は陳旧性を作らないこと大切であり、後方脱臼や重篤疾患に付随した脱臼を見逃さないための評価・診断方法についてお話頂いた。化膿性肩関節炎は早期の診断と治療が重要となり、そのための評価・診断に対する注意点やドレナージ方法について動画を交えながらお話頂いた。質疑応答では、脱臼整復後の後療法について活発な議論が展開された。
2. 肘のセッションでは、北里大学整形外科の助川浩士先生より、解剖学や画像所見、理学所見についてご講義頂いた。肘には **primary stabilizer** と **secondary stabilizer** があり、**complex elbow instability** は尺骨鉤状突起骨折を中心に単独骨折と合併する鉤状突起骨折以外の骨折・脱臼に伴う肘不安定症である。**complex elbow instability** について診断・治療に必要な外側側副靭帯や内側副靭帯および尺骨鉤状突起周辺に位置する軟部組織を中心にお話頂いた。
3. 手のセッションでは、聖隷佐倉市民病院の上野先生より、緊急性のある疾患に対する対処法や特徴的な所見等についてご講義頂いた。感染症では、化膿性腱鞘炎(**kanavel sign**)や **Mucus cyst**、咬傷について、その他に切断指、手指関節脱臼に対する診断や早期治療についてお話いただいた。また、腱損傷や神経損傷などについて、分類や鑑別診断などについて症例を交えてご講演して頂いた。

2018/07/01 第2日目 「症例 許されざる Delay 許されざる Delay」

1. 肩のセッションでは、船橋整形外科病院市川クリニックの森石先生より、症例を通して選択問題を提示して頂き、肩関節前方脱臼、後方脱臼、反復性肩関節脱臼などの病態・合併症・画像所見などについてご講義頂いた。また、船橋整形外科病院理学療法士の洪先生より、左上肢多発骨折の症例を提示して頂いた。質疑応答では特に前腕回内外禁止期間中へのアプローチに関して活発な討議が行われた。
2. 肘のセッションでは、千葉大学医学部附属病院の松浦先生より、末梢神経損傷を伴う骨折治療についてご講義頂いた。Q&A 方式での解剖学の復習の後、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、コンパートメント症候群について症例を交えてお話頂いた。神経断裂を念頭に置き、麻痺の確認をすることが重要になるとの内容であった。
3. 手のセッションでは聖マリアンナ医科大学整形外科の村上先生より、緊急性のある感染症、血流障害、神経障害、骨折に対する緊急処置の有無の判断や指標について、症例を交えてご講義頂いた。感染症は徴候や誘因を考慮し緊急性の判断が重要であること、血流障害は血流再建の緊急性の判断とその対応について、神経障害は不良なプレート位置や固定肢位により生じるためにアライメントの考慮が重要であること、骨折は見落とさないためにレントゲン側面像やCTが重要であることなどお話頂いた。